

改訂

## 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	106	科目名	化学物質総合管理学3		サブネーム	労働現場におけるリスク評価と管理	
連携機関	産業医科大学	レベル	中級	講義日時	土曜日 14:00～15:30、15:50～17:20	講義場所	お茶の水女子大学
科目概要	わが国の産業現場には57,000以上の化学物質が使用されているといわれており、これらの化学物質を取り扱う作業者の健康影響を防止するため、さまざまな労働衛生対策が行われている。また、最近では化学物質だけでなく、バイオエアロゾルなどの生物因子も問題になりつつある。さらに、わが国の労働衛生対策は従来法規遵守型であったが、労働安全衛生マネジメントシステムの導入による自主管理方式の対策が進みつつある。本講座では、有害物質を取り扱う作業現場に存在するさまざまなリスクの評価、管理の方法について解説する。						

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属	
概論	1	はじめに	講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行ったあと、労働衛生の歴史について概説する。	4月12日	共通講義棟 1号館101	保利 一	産業医科大学 産業保健学部 環境管理学講座	
	2	労働衛生管理概論	労働衛生の3管理、労働衛生教育など、労働衛生管理の基本について解説するとともに、化学物質管理に関する最近の流れ(REACH、GHS)の概略について述べる。	4月12日				
有害物質の性質	3	有機溶剤および有害化学物質	労働現場で汎用されている有機溶剤および有害化学物質の性質、環境中での挙動および生体への影響について解説する。	4月19日 14:00～		石田尾 徹		
	4	粉じんとアスベスト	労働現場に存在する粉じん、アスベストなどの粒子状物質や繊維状物質の物理化学的性質およびそれらの生体への影響について解説する。	4月26日				
影響評価	5	生物因子に対する評価と対策	バイオエアロゾル(微生物、カビ、細菌等)の健康影響および環境中に浮遊するバイオエアロゾルの測定法について解説する。	4月26日		石松維世		
	6	影響評価における新たな視点(1)	有機溶剤を使用する労働現場では、作業者の健康管理のため特殊健診が行われている。曝露環境が低濃度・長期化してきたことをふまえ、化学物質の健康影響を新しい指標で考える必要が出てきた。(1)では、(2)のモデルを理解するための基礎知識として、神経の興奮性、神経情報伝達のしくみについて説明する。	5月10日				菅田由紀子
	7	影響評価における新たな視点(2)	ガス状化学物質の生体影響を動物モデルでどのように解析しているか説明する。直接モデルとして卵母細胞発現系モデルと脳スライスモデル、慢性モデルとして吸入曝露モデル、胎児曝露モデルを紹介する。それぞれのモデルの長所と短所をどのように有機的にリンクさせていくか議論する。	5月10日				
作業環境及び曝露対策	8	作業環境測定	わが国における労働安全衛生法に基づく作業環境測定の方法について解説する。	5月17日		吉川正博		
	9	生物学的モニタリング	有害物を取り扱う作業において尿、血液などの生体試料から曝露の程度を推定する方法として有用な生物学的モニタリングについて解説する。	5月17日				
	10	作業環境改善の方法	有害物質を取り扱う作業場における作業環境あるいは曝露の評価方法と、それに基づく作業環境改善の手法について述べる。	5月24日				保利 一
	11	労働衛生保護具	有害物質から作業者を保護するために汎用されている防じん、防毒マスクなどの労働衛生保護具について、特徴、性能、使用上の注意等について述べる。	5月24日				
マネジメントシステム	12	労働安全衛生マネジメントシステム(1)	近年、職場の労働衛生管理の方法として導入する事業所が増加している労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の基本的考え方について概説する。	5月31日		伊藤昭好		
	13	労働安全衛生マネジメントシステム(2)	職場において労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、実施する場合に考慮すべき事項および運用の実際について述べる。	5月31日				
	14	現場におけるリスク管理の実際(1)	現場における化学物質のリスク評価、リスク管理の方法について、現場における事例に基づき概説する。	6月7日				共通講義棟 1号館205
15	現場におけるリスク管理の実際(2)	現場における化学物質のリスク評価、リスク管理の方法について、現場における事例を交えながら概説する。	6月7日	橋本晴男		エクソンモービル 医務産業衛生部		